

流れのほとりて

「備え…。『～ために』」

「マリヤはわたしの葬りの日のために、それを取っておこうとしていたのです」(ヨハネ 12:7)

マリヤが、このための準備に取り組み始めたのは何時のことでしょうか。イエスの足元に座ってみ言葉に聞き入ったときに起点があると思います。イエスはこれまでに弟子たちには何度も十字架の予告をされていましたが、誰もそれを理解することができませんでした。しかし、マリヤがこうすることができたのは、彼女の心が既に捧げられ、砕かれていたからでしょう。ですから、当然非難を受けるであろう事も覚悟の上で弟子たちの考えられないような行動を取ったものと思われま

す。み言葉を聴くとは、行動化されて初めて聞いたといえます。そうしないではいられない思いで取り組んだのでしょう。当時の社会では、女性が多くの人前でこのような行為に及ぶとはまったく思いもよらない出来事です。この行為に対する主イエスの評価は、この絶妙なタイミングに対する最大のものといえます。

「わたしの葬りの日のために」との言葉を受けること

ができたからです。誰もが、この言葉を聴くことができるなら、すべてを捧げられるという思いをもつことでしょう。それほど、マリヤが主イエスを深く理解していたということです。それゆえ、主イエスのみ顔に現れた意思を読み取ることができたのです。そして、最も必要としている事への対応ができたのです。



JEA 女性委員会
担当理事 渡辺 昌彦

この出来事は、全てのキリスト者へ献身の啓発を意味していると理解できます。私たちも、このような主イエスの必要(神・キリスト・教会・世の人々)に対してどんな行動を取ることができるでしょう。

この前後で男性たちが為し得たことは、主イエスの死後の処置のみであったことを聖書は記しています。み言葉に生きる私たちは、それを行動化すべき信仰者の在り方をマリヤによって教えられます。マリヤがただ足元に座ってみ言葉を聞いている人と理解するだけでは不十分なのです。マリヤの真の信仰姿勢に倣う者となりましょ

JEA 女性委員会の奉仕に関わって(義母の介護と共に)



八木橋 みどり 昨年の6月から JEA 女性委員会で奉仕をさせていただいています。当初から同居の義母の介護があるので奉仕に支障が出る懸念はありましたが、女性委員会では理解の上温かく受け入れてくださいました。当時は義母の具合も安定していました。しかし委員となって間もない夏ごろから事態は変わり、母に認知症の症状がはじまりました。義母とは長く一緒に暮らしてありますし、老化による身体障害を考慮して自宅も工夫し、高齢の母と共に暮らす備えはしてきたつもりですが、認知症については想定外でした。次々と起きてくる母の不可解な言動への困惑に加え、実際のトラブルの処理に昼夜追われ、自分の時間や活動

の予定が全く立たなくなるとき、すべて公の奉仕は辞めざるを得ないと思いました。周囲への迷惑や、責任を果たせない不甲斐なさを思いつつ、辞任を申し渡しましたが、女性委員会では立場を保留のまま様子を見ることになりました。その後は祈りと細やかな配慮をいただき、奉仕者としてより、支えられ助けられる者として委員会に関わらせていただきました。それから半年、母の症状が進んで見守りが常に必要になり、礼拝出席もままならなくなったころ、突然道が開かれて母はグループホームに入居することになったのです。振り返るとこの半年は女性委員会ならではの理解と配慮に触れる恵みと、介護の中で自分の弱さ、罪深さを示されるときでした。感謝と共に、高齢化日本の教会でこの体験を分かち合うことができればと願っています。

《いのちのパン》

あなたこそ私の主

長谷美代子

その夜、なかなか眠れませんが。隣室の物音が気になります。「注意をしようか。いや、我慢、我慢。」そのうちに通りの自動車の音さえも耳につきま

起き上がり「眠れない原因を除いてください。」と祈ることにしました。

神様は祈りに応えてくださいました。真の原因は私の心でした。その日、あることですかすかに複雑な気持ちになつていました。私は果たしてこんなに利用されて、苦勞し続けていいのか。これからどうしたらいいのかと考えていたのです。

私は「神のしもべ」からずれて、結局は「神をしまさした」としていたことに気づき、主の十字架を誇ると賛美を歌いながら進む中、石に躓き、自己中心の火がくすぶり始めていたのです。もう一度全部をささげますと祈り、安らかな眠りに入れました。

A. 聖書の枠組みを求めて

検証されていない「伝統的な」教えや、経験という枠組みを用いて聖書を解釈するのは、適切な姿勢ではありません。

キリストによる贖いは古い契約の中で予兆され、新しい契約の中で成就されました。贖われた者だけが神の民であり、贖われた者だけがキリストのからだなのです。

贖いこそが、神のご計画の全容を表わし、聖書を解釈する際に全体像を心に留めることを可能にし、聖書全体を理解するための論理的な枠組みとなるのです。しかし、教会における女性の位置づけに注目するとき、別の枠組みを用いて特定の箇所を解釈してしまいがちです。

B. 伝統的な枠組みの検証

教会の中で育ったクリスチャンの大半は、男性と女性の関係について、また

教会の中における女性の位置づけについて、家父長的、階層的なモデルを教えられてきています。

また、罪のもたらした結果の一つがアダムがエバを支配することだったので、この裁きがいつの時代においても男性と女性の基準を決定するものと見なされています。墮落という枠組みが聖書を解釈するとき用いられるようになると、罪のもたらした支配が説明(= descriptive; 神は罪のもたらすものが何であるかを説明しておられる)ではなく、定め= prescriptive; 神は私たちが罪のもたらすものに苦しみ続けなければならぬ、と定めておられる)になります。

この伝統的な見解の主な特徴の一つは、男性には権威が与えられているが、女性には与えられていない、ということ

です。その結果、権威は神のことばや共同体の中にあるのではなく、男性の指導者の中にあると見なされ、服従とは女性から男性への服従として教えられます。

C. イエスの枠組みの採用

神の国の働きは、キリストによって導入された新しい秩序によって決定されるべきです。それはいのちを育むことと賜物を磨くことが支配というものを一切締め出す新しい共同体です。

権威は神のことばの中に位置づけられ、権威ある地位は人々の益という目的のために与えられ、人々の上に力を行使するためではありません。服従は、キリストのからだの中において互いに服従すること、そしてキリストに服従することとして捉えられています。職務は性差からではなく、霊的賜物から出て来ます。

《私の教会のサンデーランチ》

イエス様はご自分をいのちのパンでと言われ、十字架にかかれる前夜にも、また復活された後にも弟子たちと食事をされました。食事は肉体的な力を得ることだけが目的ではなく、神の家族が主イエス様を中心とした交わりをする貴重な機会です。このような理解から、私たちの教会では婦人たちが中心となって毎週礼拝後の昼食が準備されています。また、昼食後には奉仕や特別な集会がなくても交わりを楽しめるように、いろいろなお茶やコーヒー、チャイ、ホットチョコレートなどが提供されます。この欄では、教会の人たちに人気の昼食メニューをひとつご紹介します。

高橋 芳江

<カレーピラフ>

(材料は家庭でも手軽にできるお米2台に対する分量なので、人数に応じて増やしてください。)

<材料> ツナ



缶 (小1缶)、ミックスベジタブル (カップ2)、カレー粉 (小さじ2)、固形スープの素 (1個)、酒 (大さじ2)、塩 (小さじ1/2)

<作り方>

(1) 米は炊く30分以上前にとぎ、普通に水加減しておく。

(2) スープの素は砕いて混ぜ、ツナは缶汁ごと加える。

(3) 解凍したミックスベジタブルも加え、普通に炊く。

オムライスにしてもおいしいです。

＼(´▽`)／

《海外コーナー》No.3 内田みずえ

2004年11月15日、インドのバンガロールで開かれた全アジア福音主義女性会議に丸山園子師と私が出席しました。「女性虐待とエイズの問題」を考えるこの会議の主講師はC.C. クレーガー博士(米国)とN. ネーソン-クラーク博士(カナダ)(二人とも女性)で、参加者はニュージーランド、ドイツ、イギリスを含めた17カ国から200名でした。

プログラムは連日盛沢山で、講義、聖書講解、女医たちによるHIV/AIDS(エイズ)についての講義とスライド、グループでの分かち合い、ワークショップ、パネルディスカッション、世界の国々のための祈りの時、カルチャー・ナイト、などなど。

女性に対する暴力やHIV/AIDSに関する数字や事例は凄まじいものでした。取り上げられたふたつの問題の根の深さと広がり、そして重大

さに圧倒されるばかりです。

まず、女性に対する暴力が広く存在することを認識すること、表に出にくい問題なので注意深く耳を傾けること、第三者の援助が必要な問題であること、援助する側に特別の教育と訓練が必要であること、などが強調されました。また教会が積極的にこの問題に取り組むために家庭内暴力に反対する説教や聖書研究をすること、青年たちへの教育、カウンセリング、援助グループの形成、シェルターを設けるなど具体的な方法が挙げられました。

日本のクリスチャンも、自分の小さな世界、自分の教会にだけ目を向けるのではなく、世界で、日本で、そして隣人の家で何が起きているのかを少しでも知り、そこでなされている神様のみわざに参加する者にならせていただきたいと切に祈り、願います。



《JEA 女性委員会メンバー》

委員長 丸山園子(同盟)

委員 内田みずえ(福音自由)

榊原邦子(日本ホーリネス)

高橋芳江(JECA)

長谷美代子(インマヌエル)

八木橋みどり(バプ教会連合)

ルース・リーフ(JEMA)